

46. 解答：

- a. 正：二次小葉内の構造とは無関係の分布を特徴とする。血行散布性病変を示唆している。
- b. 誤：多発性、小葉中心性のすりガラス状の粒状影を特徴とする。
- c. 誤：気道に沿った分布なので除外。
- d. 正：肺動静脈のいずれの部位にも分布するため、特定の分布様式をとらない場合がある。
- e. 誤：呼吸細気管支に病変の主座があり、小結節、分枝状影、および中枢側の気管支拡張や末梢側の気腫性変化を特徴とする。

47. 解答：e

- a. 誤：間質性肺炎の合併が高率に認められる。
- b. 誤：Bleomycin、Cyclophosphamide、Methotrexate etc による間質性肺炎が知られている。
- c. 誤：放射線肺臓炎から肺線維症に進行するのが一般的である。
- d. 誤：細気管支周囲の線維化から始まり、進行例では UIP と類似した像を呈しうる。
- e. 正：気管支拡張や結節、浸潤影が特徴的所見である。

48. 解答：d

- a. 誤：hydrostatic edema の一つで内層優位の consolidation を特徴とする。
- b. 誤：内層、外層いずれにも病変は分布しうる。
- c. 誤：中枢側、肺門側優位に consolidation を呈する。
- d. 正：肺動脈の中枢側での拡張と末梢にかけての先細りが特徴的所見とされる。局所的な浮腫による consolidation や mosaic perfusion (CT)がみられることもあるが、少なくとも肺門側の consolidation を特徴とする疾患とはいえないと考えられる。
- e. 誤：consolidation, 網状影がびまん性に肺門や下肺野に優位にみられることが多い。

49. 解答：d

- a. 誤：二次結核に効率にみられる特徴的所見の一つである。
- b. 誤：リンパ節腫大とともに初期肺結核の特徴所見の一つである。
- c. 誤：末梢気道に区域性に分布し、気道散布性を示唆する所見である。二次結核にみられる典型的な所見である。S1,S2,S6 が好発部位である。
- d. 正：肺梗塞に特徴的所見で、
- e. 誤：分枝状で、高濃度の境界明瞭な所見を呈する小葉中心性の病変の一形態である。末梢気道の病変であることを示唆している。

50. 解答：d, e

- a. 誤：圧排増殖性の発育を示し、気管支透亮像やすりガラス状の濃度上昇を伴わない。多くの場合、縦隔、肺門リンパ節転移を伴う。
- b. 誤：中枢側、末梢側いずれにも発生し、圧排増殖性で壊死を伴う場合が多い。すりガラス状影は伴わない。
- c. 誤：特殊な場合(細気管支肺胞上皮癌の転移 etc.)を除き、高濃度の結節を特徴とする。気管支の関与を伴わない場合が多い。
- d. 正：末梢の気道上皮の軽度の異型を伴う過形成性病変で、腺癌の前癌病変と考えられている。均一なすりガラス状の濃度上昇を特徴とする限局性病変である。
- e. 正：末梢気道由来と考えられる腫瘍細胞が肺胞置換性に増殖する腺癌の一亜型である。小さな病変では画像上、異型腺腫様過形成との鑑別は困難で、徐々に虚脱所見、間質の線維化を伴い進行する。

以上、解答 46～50 は國井亮祐会員（新潟大学）